

政治的変動の証「前方後円墳」

I-13-①

前方後円墳は、大和朝廷と、それに従った地方の豪族を葬るためにつくられた墓であったと言われています。この名取も中央に取り込まれていった様子が、前方後円墳の存在からうかがい知ることができます。
古墳時代とは、それまで多くのムラやクニに分かれていた日本が大和朝廷を中心にまとまっていく時代なのです。

I-13-①



I-13-②-a



I-13-②-b



I-13-②-d



I-13-②-h



I-13-②-c



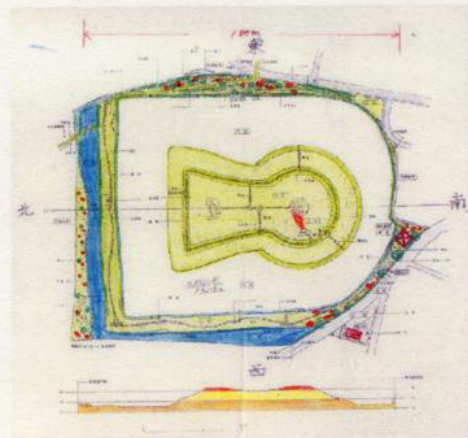
I-13-②-e



I-13-②-g



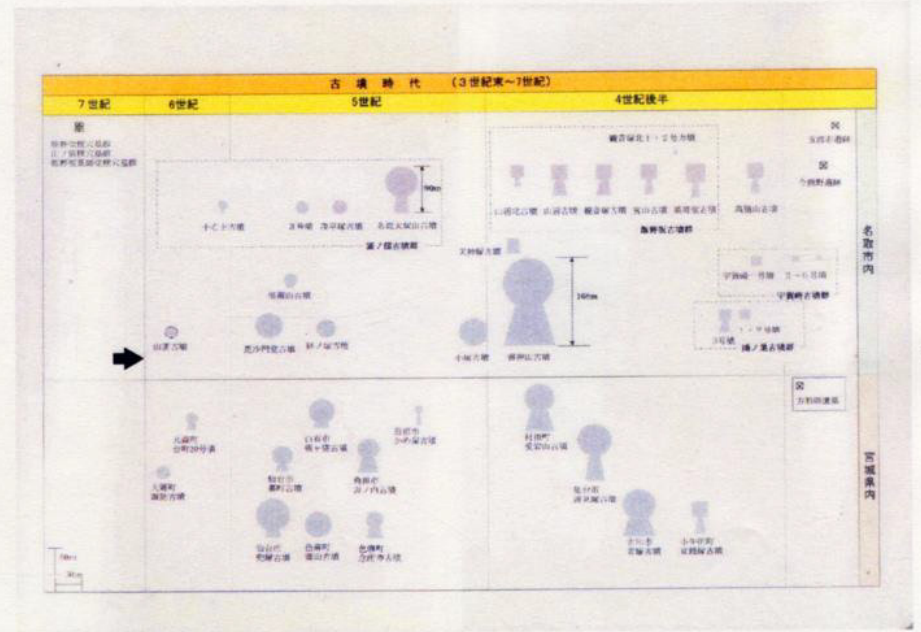
I-13-②-f



I-13-③

埋葬者の身分を示す 古墳の形や大きさ

I-14



I-14

豪族の中に、強大な権力を持った王者とそれに従った中小の豪族がいたことが、古墳の規模や形の違いによって知ることができます。大和朝廷が、その支配下の豪族に対して、前方後円墳を造る特権を与えたように、古墳の大小も、その身分に応じて与えられたのでしょう。
名取の経の塚古墳から出土した鍍形埴輪からは、この時期、武力をもった豪族たちが、それぞれ地域で勢力を強めていった様子がうかがえます。この古墳に葬られた豪族は、自分より力があり地位も高い協力関係にある豪族のために戦ったのかもしれませんが。

I-14